

患者：24歳の男性

症状：頭痛、倦怠感、イライラ

疾患：緊張型頭痛

経過：入社後の3~4カ月目から頭痛の程度・頻度が増加



現病歴：患者は入社後3~4カ月目から頭痛の増加を自覚しており、これまでにない程度（週に）と頻度の頭痛が起こっている。総合病院でMRI検査を受けたが「緊張型頭痛でしょう。対症療法しかありません。」と言われてロキソニンなどの鎮痛剤を処方された。

学校時代にも試験前や疲れから頭痛を感じるがあったが、市販薬で対処可能していた。

この1~2カ月、仕事を休むことが増え、心配した上司が産業医の診察を提案し、産業医はストレスが関係していると考えて、心療内科を紹介した。（心療内科クリニックには公認心理師が常勤で勤めている。）

既往歴：特記事項なし。

STEP②BPSモデルの図を作成してみましょう

抜き出した要因をつなげ、患者さんの困りごとの全体像を図示ください（次のシートに記載）。

* 下図は参考です。BPSモデルの図に正解はありません。皆さまのお考えを、ワークを通じてお教えください。書籍をお持ちの方はp.127、p.139、p.152も参考ください。

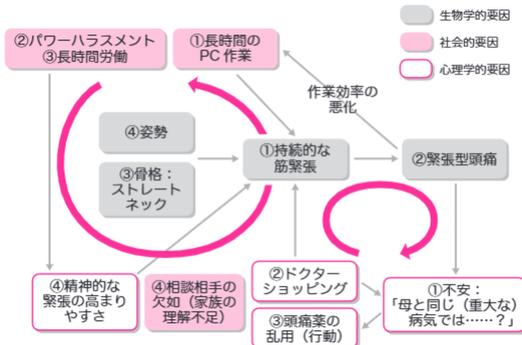


図7 BPSモデルを用いた病態仮説図（円環）の作成例

『誰もが知っている「緊張」の、誰も知らないアセスメントとアプローチ』p.20より転載